R7.2.7　伝統を引き継ぐ会　３年生の語り

小集団で学ぶ、ということ。

東安中学校は小集団交流に力を入れていますが、私は１年生のころから小集団交流が苦手でした。私は、一人で黙々と作業を進めるのが好きな性格です。だから小集団交流では、仲間の意見を聴くだけ。わからなければ教科書で調べるか、あとで先生に質問すればいい。そう考えていました。

しかし、クラスの小集団交流はいつもにぎやかで明るい雰囲気でした。進行役の人が積極的に声を掛け、活発に意見を言い合っていました。そして、聴いているだけだった私にも、「あなたはどう思う？」と意見を求めてくれました。私も仲間に応えようと必死で頑張っていると、少しずつ抵抗感が薄れていきました。そして小集団交流への意欲が向上してからは、自分の意見を話せる場面も増えていきました。

今の私は、１年生の頃よりも確実に成長したと思います。話すことへの苦手意識がなくなったわけではありません。ただ、周りの仲間の関わりのおかげで、私は自分の行動を変えることができたと思います。

後輩の皆さん。仲間との関わりは、自分一人では実現することのできない、成長のきっかけを与えてくれます。仲間を、大切にしてください。

支え合いの心。

僕は３年生になったとき、受験生として、今まで以上に集中して授業に取り組もうと決意しました。そこで、特に力を入れて頑張ったのが、小集団交流の学び合いです。自分も今まで、問題がとけなくて悔しい思いをした経験が何度もあります。だから、小集団の全員が答えが分かるように、進んで声をかけて意見を聴いたり、繰り返し説明をしたりしました。

僕が教えたことで、仲間が問題を理解して解くことができたときは、達成感があってとてもうれしかったです。また、人に教えるためには順序立てて説明する必要があるので、自分の頭の中も整理されて、理解が深まりました。小集団での教え合いは、教える側にも教えられる側にもメリットがあるのだ、と実感しました。

さらに僕は、小集団交流で自信をつけ、普段の生活でも仲間と声をかけ合ったり、助け合ったりできるようになりました。今は班長を務め、仲間に頼られることにやりがいを感じながら、充実した学校生活を送っています。

後輩の皆さん。授業でも、他の場面でも、仲間とたくさん関わり合って、楽しく充実した学校生活を送ってください。

ちょっとの努力の積み重ね。

僕は勉強が嫌いで、授業の内容もよく分かりませんでした。そのうち学校に行くこと自体もいやになってしまい、２年生の後半からは、学校を休むようになりました。

そんな僕に対して、先生や仲間たちはたくさん声をかけ続けてくれました。「早く学校来てよ。」「やればできるって。」そんな言葉がとてもうれしかった。そして３年生になってからは、遅刻しながらでも、また学校に通えるようになりました。きらいな勉強も、仲間と一緒に少しずつ頑張りました。例え少しでも、勉強をやった分だけテストの点数は上がっていったし、先生の話が理解できると授業も楽しいと思えるようになりました。そして、僕は今、志望校合格に向けて、仲間と一緒に受験勉強を頑張っています。

後輩の皆さん。もし「勉強がいやだなぁ」と思っている人は、１０分だけでも勉強してみてください。ちょっとずつでも、やったぶんは必ず点数が上がります。そうすれば、「また、ちょっと頑張ろう」と、思えるはずです。僕のおすすめは、昼休みの１０分間学習です。無理をして苦しくならないように、ちょっとずつ、自分の目標に近づいていってください。応援しています。

当たり前ではない、仲間の存在。

僕は小学１年生からサッカーをしていて、中学校からはクラブチームに所属しました。クラブの人達は全く知らない人ばかりだったので、始めはとても緊張しました。しかし、共に練習するうちに仲が深まり、雰囲気が良くなっていくにつれて、チームとしての一体感も高まりました。試合ではお互いのミスをカバーしたり、ベンチから大声で応援をしたりして、チームみんなで勝利を目指しました。仲間と同じ目標をもち、仲間と一緒に頑張ることで、自分自身も選手として成長することができました。

僕がサッカーを通じて学んだことは、学校生活でも全く同じことが言えると思います。　後輩の皆さん。今、あなたの横にいるクラスの仲間も、はじめはみんな知らない人ばかりでした。共に学校生活を送る中で絆を深め、時には問題が起きたり、困ったことがあったりしても、学級目標という同じ目標に向かって心を一つにして頑張っています。そして、その過程で、必ずみなさん一人一人が成長しているはずです。

僕たち３年生は、もうすぐ卒業して離れ離れになります。みなさんも、そばに仲間がいることは、当り前ではありません。今を共に過ごす仲間に日々感謝し、お互いに協力して、よりよい学校生活を送っていってください。

本当のリーダーとは。

僕が「リーダー」と呼ばれる役割をしてきた中で、忘れられない出来事があります。ある日の掃除の時間、同じ班の仲間が掃除をせずにふざけていました。僕は怒られたら困ると思って呼びかけをしましたが、仲間はやめませんでした。そこに先生が来て、仲間は注意されたのですが、先生はその後僕にも、「あなたは声をかけたの？」と聞かれました。僕が「先生が来る前にやめなよ、と声をかけました」と答えると、先生は「それで、本当のリーダーなのか。」と言われました。当時の僕は、他にどんな声かけをすればよかったのかが分からず、自分がリーダーとして否定されたような気がして、とても落ち込んだことを覚えています。

本当のリーダーとは何か。その答えを探すために、僕はリーダーを続けてきました。そして３年間、学年の仲間と関わり続け、卒業を控えた今、やっと自分なりの答えを見出せた気がします。それは、リーダーはただ指示をして、仲間の姿を変える存在ではないということ。本当に仲間のためを思って語りかけ、姿だけでなく、仲間の心を変えることです。そして、仲間が自分の意思で正しい行動をし、成長できたと感じたときに、それを自分のことのように喜べる人が、本当のリーダーなのだと思います。

後輩の皆さん。学校生活では、自分のことだけを考えていてはだめです。仲間のことまで考えるのは、苦しさも倍になるかもしれません。でも、仲間の成長を喜べた時は、嬉しさも倍になるのです。そうやってお互いを思いやり、支え合いながら、仲間と共に成長し、たくさんの喜びを味わってください。

僕達３年生は決して、何でも皆さんの手本になれる様な、完璧な存在ではありません。しかし、後輩の皆さんよりも優れていると自信をもって言えることが、１つあります。５人の発表すべてに共通していたこと。それは、３年間の学校生活の中で、仲間と関わり、築き上げてきた絆です。